



# 語り合いの交流から まちづくりの種をまく いいで未来号Ⅱ 2010.7.31-8.1

## 秋田県で「若者会議」を視察

7月31日から8月1日にかけて、「いいで未来号Ⅱ」が実施された。この事業の目的は、一歩町を離れ、飯豊の課題や将来について町民が語り合い、意見をまちづくりに生かしていこうというもの。今年で2回目となる。

町内外からの一般参加者が24名にぎわい再現プロジェクト委員会から9名、その後藤町長と事務局の合計36名が参加した。今回は参加対象を65歳までとした。その結果、20歳代から60歳代までと広い年代での交流が可能となった。

初日は、秋田県で実施している「若者会議（ヤングミッション）」を視察。「若者会議」とは、若者が集まり、現状の課題や意見を出し、目指す地域の理想像を描き出す取り組みだ。県から委託を受けたNPO法人が実施する。県内各地で開かれているのが特徴で、出てくる課題や将来像は地域によって異なるという。未来号は、仙北市での会議に参加。運営する秋田県南NPOセンター職員から事業の説明を聞いた後、実際のグループ活動の様子を見学。「仙北市の歴史上の偉人をNHKの大河ドラマに売り込もう」など、若者らしい強いアイディアが次々と発表され、参加者を驚かせた。さらに町から

## 参加者の声



Interview

他県の現場を視察し、良い刺激に

いとうさとみ  
伊藤聡美さん  
小屋

昨年も未来号に参加しましたが、今回はいろんな世代の方と交流ができて良かったです。他県でも同じような課題を抱え、話し合いをしている現場を視察でき、とても良い刺激になりました。今後も人とのつながりを大切にしていきたいです。



Interview

より多くの地区からの参加を

やまぐちよしゆき  
山口順之さん  
椿

違う職種の方々と話し合える「町民主体」の事業でとても良かったです。相手の意見を尊重して否定せず、自由に発言できた環境が、今回の成功の理由だと思います。次回はより多くの地区から参加があることを期待したいです。



Interview

前進姿勢に町の光を感じた

まつただちゅういち  
松田忠一さん  
椿

参加者の前進姿勢が伺えて、町の光が見える思いでした。今回出された意見を集約し、分析を進めれば、町の将来像を描くことができると思います。経験に裏打ちされたシルバー世代の方のご意見も今後の参考にはいかがでしょうか。

# 復刻版！椿劇場

昭和の  
にぎわい再現！！



写真はイメージです

古きよき時代の「昭和の懐かしさとレトロ」を演出し、かつてにぎわいをみせていた「椿劇場」を一夜限り復活させる「復刻版！椿劇場」を開催します。

つきましては、夜市の出店に協力してくださる皆さんを募集します。一緒に昭和のにぎわいを再現しましょう！

◆日時／9月20日(月・祝)

14:00～21:00

◆場所／椿地区財津堂

◆内容／野外映画上映会、夜市

◆夜市の出店募集について

①テントはこちらで準備いたします(テント代4,000円)

②ゴミは出店者が処分してください

③臨時飲食店申請は別途3,200円かかります(申請は町観光協会で行います)

④電源が必要な方は、ドラムの準備をお願いします

⑤出店者説明会を8月26日(休)15時から町民総合センター「あ～す」で開催します

◆問合せ先

①復刻版！椿劇場について…  
役場総務企画課プロジェクト推進室 ☎72-2111内線232・230

②出店申し込みについて…  
飯豊町観光協会 ☎86-2411



- ①新潟港に到着し、フェリーのデッキから手を振る参加者たち。一人ひとりの表情から今回の事業の充実がうかがえる
- ②船内でのグループ活動の様子。まさに参加者が膝を突き合わせて意見を交わした
- ③仙北市「若者会議」の参加者と一緒記念写真。貴重な交流となった
- ④「若者会議」の話し合いに加わる飯豊町の参加者



「若者会議」の視察は、翌日の活動に大きな影響を与える。未来号の二日目は、帰路のフェリーの中で半日以上、グループ活動に費やす。一人ひとりが「まちづくり」について活発な意見を出し、議論が盛り上がる。「こんなに町のことを話した機会は今までなかった。職業も年代も異なる人と遠慮なしに話し合える場面は、この『いいで未来号』でしかありえない」とある参加者は言い切る。

事業の成果は、すぐに出来るものではない。にぎわいを再現するには、まだまだ人づくりが欠かせない。町内に広く交流の輪を広げ、アイデアをみんなで行動に移すことが肝要。参加者がそのことを一番よく知っている。

の参加者もグループに加わり、仙北市の若者と意見交換する機会も得ることができた。

「若者会議」の視察は、翌日の活動に大きな影響を与える。未来号の二日目は、帰路のフェリーの中で半日以上、グループ活動に費やす。一人ひとりが「まちづくり」について活発な意見を出し、議論が盛り上がる。「こんなに町のことを話した機会は今までなかった。職業も年代も異なる人と遠慮なしに話し合える場面は、この『いいで未来号』でしかありえない」とある参加者は言い切る。



⑤帰りの船内では『自分たちで「まちづくり」をやってみよう！』をテーマにグループ活動を実施。それぞれのグループの発表を、参加者は真剣に聞き入っていた